

平成22年度冬作関係 除草剤・生育調節剤試験判定内容

財団法人 日本植物調節剤研究協会

平成22年度冬作関係除草剤・生育調節剤試験成績検討会は、平成23年9月8日(木)に浅草ビューホテルにおいて開催された。この検討会には、試験場関係者21名、委託関係者31名ほか、計81名の参集を得て、除草剤22薬剤(148点)、及び

生育調節剤2薬剤(7点)について、試験成績の報告と検討が行われた。その判定結果および使用基準については、次の判定表に示す通りである。

平成22年度 冬作関係除草剤・生育調節剤試験供試薬剤および判定一覧

A. 除草剤 (1)小麦

注)アンダーラインは新たに判定された部分を示す。

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用基準							継続の内容
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1.B-3015・P 粒 プロトリン:0.8% ベンチオカーブ:8.0% [クミアイ化学工業]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	4kg	全土壌 (砂土を除く)	北海道 寒地(細作)	1)砂土、整地、覆土を ていねいに行つて均 一に散布する	・播種後出芽前処理の 4～6kg/10aでの効果・ 被害の確認(全域) ・生育初期処理の4～ 5kg/10aでの効果・被害 の確認(北海道、東北) ・砂壌土における4～ 5kgでの効果・被害の確 認
5kg						東北 寒冷地北 部(細作)			
4～6kg					壤土～埴 土	関東以西 温暖地以 西(水田裏 作)			
3～4kg					砂壌土				
小麦生育初期 (スズメノテッポウ 1.5葉期まで)				3～5kg	壤土～埴 土				
				3～4kg	砂壌土				
2. BCH-0817プロアフル フルフェナセット 33.6% ジフルフェナゲン 8.4% [ハイエル クロップサイエ ンス]	実・継	一年生雑草 (<u>イヌガシ</u> <u>を含む</u>)	茎葉兼 土壌	播種後～ 小麦3葉期、 イネ科雑草1Lま で	60～80mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	全域	・薬に白斑や黄化、褐 変を生じる場合がある	・年次変動の確認 (北海道) ・カスノコグサ発生後処理 (小麦1～3葉)での効果 の確認 ・抵抗性スズメノテッポウに 対する効果の確認
カスノコグサ			土壌						
3.BCH-109 細粒 ジフルフェナゲン:0.2% フルフェナセット:0.6% [ハイエルクロップサイエンス]	継								・効果、被害の確認 (東北以南)
4.HPW-105乳 トリフルリン 33% IPC 11% [保土谷UPL、 ダウ・ケミカル日本]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	300～ 400mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・ツクサ科、カヤツグサ 科、キ科、アザミ科を除く	・200mL/10a処理での 効果の確認(東北以南) ・300～400mL/10a処理 での年次変動の確認 ・碎土性と被害につい て ・カスノコグサ、抵抗性ス ズメノテッポウ、ネズミムギに 対する効果の確認
5.HSW-062 プロアフル インタノファン:10% ジフルフェナゲン:4% [ホクサン]	実	一年生雑草 (<u>イヌガシ</u> <u>を含む</u>)	土壌	播種後出芽前、 雑草発生前	150～ 250mL 散布水量 70～100L	全土壌 (砂土を除く)	北海道	・薬に白斑を生じる場 合がある ・イヌガシが多発する 圃場では高薬量で使 用する	
茎葉兼 土壌			出芽直前～小 麦3葉期、雑草 発生始						

A. 除草剤 (1)小麦

注)アンダーラインは新たに判定された部分を示す。

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
6. KUH-043顆粒水和 ピロキサスルホン 50% [クマイ化学工業]	実	一年生雑 草(イヌカミツ を含む)	茎葉兼 土壌	播種後～ 小麦3葉期、 雑草発生揃期 まで	10～20g 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	北海道	・広葉雑草が多発す る圃場では高薬量で 使用する	
7. MK-243細粒 インダノファン 0.8% [日本農薬]	実・継	一年生雑 草	土壌	播種後～ 小麦2葉期、 雑草発生始期 まで	6～6kg 4	全土壌 (砂土を 除く)	東北以南	・タネツケバナには効果 が劣る	・播種後出芽前、 4kg/10a処理での効果、 薬害の確認 ・小麦1～3葉期処理で の効果、薬害の確認 ・カスノコグサに対する効 果の確認 ・ホトケナギに対する効果 の確認 ・抵抗性スズメノテッポウに 対する効果の確認
		カスノコグサ		播種後出芽 前、 雑草発生前					
8. NC-613乳 エスプロカルブ 60% ジフルフェニカン 1.5% [日産化学]	実・継 (従来ど おり)	一年生雑 草(イヌカミツ を含む)	茎葉兼 土壌	播種後～小麦 出芽揃、雑草 発生始まで	300～ 400mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	北海道 東北以南	・葉に白斑を生じる場 合がある ・SU抵抗性、ジニトロ アリン抵抗性、およびそ の複合抵抗性に有効 ・イヌカミツが多発する 圃場では高薬量で使 用する	・小麦1～2葉期処理で の効果、薬害の確認(北 海道)
		一年生雑 草		播種後～小麦 出芽揃、雑草 発生始まで	300～ 500mL 散布水量 100L				
		*抵抗性ス ズメノテッポウ		播種後～小麦 出芽揃、 スズメノテッポウ 発生始まで					
		カスノコグサ		播種後～小麦 出芽揃、 カスノコグサ発生 始まで	400～ 500mL 散布水量 100L				
9. NC-613細粒 エスプロカルブ 6% ジフルフェニカン 0.15% [日産化学]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽 前、 雑草発生前	3～5kg	全土壌 (砂土を 除く)	東北以南	・葉に白斑を生じる場 合がある	・カスノコグサ、抵抗性ス ズメノテッポウに対する効果 の確認
10. NH-1002 細粒 インダノファン 0.8% ジフルフェニカン 0.125% [日本農薬]	継								・効果、薬害の確認 (東北以南) ・カスノコグサに対する効 果の確認
11. SYJ-100乳 プロスルホカルブ 78.4% [シンジエンタ ジャパン]	実・継 (従来ど おり)	一年生雑 草	茎葉兼 土壌	播種後～ 小麦2葉期、 雑草発生始ま で	400～ 500mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除 く)	全域 東北以南	・葉斑、黄化、縮葉な どの症状がみられる 場合がある ・SU抵抗性、ジニトロ アリン抵抗性、およびそ の複合抵抗性に有効	・カスノコグサ、カラスミギ、ネ ズミミギに対する効果の 確認 ・ヤエムグラに対する効果 の確認 ・播種後出芽前、小麦1 ～2葉期処理での、イ ヌカミツに対する効果の 確認 ・抵抗性スズメノテッポウに 対する効果の年次変動 の確認
		*抵抗性ス ズメノテッポウ		播種後～ 小麦2葉期、 スズメノテッポウ1L まで					

A. 除草剤 (1)小麦(初冬播き栽培)

12. NH-9301 フロアブル ピラフルフェニチル 2.0% [日本農薬]	継								・春播き小麦品種の初 冬播き栽培での効果、 被害の確認(北海道)
13. SYJ-100 乳 プロスルホカルブ 78.4% [シンジエンタ ジャパン]	継								・春播き小麦品種の初 冬播き栽培での効果、 被害の確認(北海道)

A. 除草剤 (2) 大麦

注) アンダーラインは新たに判定された部分を示す。

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用規準						継続の内容	
		対象雑草	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域		使用上の注意
1.B-3015・P粒 プロトリン:0.8% ベンチオカーブ:8.0% [クマイ化学工業]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	土壌処理	播種後出芽前、雑草発生前	4〜5kg 3kg	壤土〜埴土 砂壤土	北陸以西寒冷地南部以西(水田裏作) 関東以西温暖地以西(水田裏作)	1)砂土、整地、覆土を ていねいに行つて、均 一散布に留意する。 2)対象:二条大麦・六 条大麦・裸麦(但し、 六条大麦は寒冷地南 部に限る)	・東北以南での効果、薬 害の確認(3〜5kg)
2. BCH-081フロアフル フルフェナセツト33.6%、 ジフルフェニカン 8.4% [バイエルクロップサイエ ンス]	実・継	一年生雑草	茎葉兼 土壌	播種後〜 大麦3葉期、 イネ科雑草1Lま で	60〜 7980mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・葉に白斑や黄化、褐 変を生じ、出芽前期の 高薬量処理では生育 が遅延される場合が ある	・高薬量での薬害につ いて ・カズノコグサ、抵抗性スズ メノテッポウに対する効果 の確認
3.BCH-109 細粒 ジフルフェニカン:0.2% フルフェナセツト:0.6% [バイエルクロップサイエ ンス]	継								・効果、薬害の確認
4.HPW-105乳 トリフルラン 33%、 IPC 11% [保土谷UPL、 ダウ・ケミカル日本]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽 前、 雑草発生前	300〜 400mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・ツユクサ科、カヤツグサ 科、キク科、アブラナ科を 除く	・200mLおよび 400mL/10a処理での効 果、薬害の確認 →300mL/10a処理での 年次変動の確認 ・碎土性と薬害につい て ・カズノコグサに対する効 果の確認
5. MK-243細粒 インダノファン:0.8% [日本農薬]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後〜 大麦2葉期、 雑草発生始期 まで	5〜6kg	全土壌(砂 土を除く)	東北以南	・タネツケバナには効果 が劣る	・効果、薬害の確認 ・4kg/10aでの効果の確 認
6.NC-613細粒 エスプロカルブ 6%、 ジフルフェニカン 0.15% [日産化学工業]	実・継	一年生雑草	土壌	播種後出芽 前、 雑草発生前	3〜5kg	全土壌(砂 土を除く)	東北以南	・葉に白斑を生じる場 合がある	・効果、薬害の確認 ・カズノコグサ、抵抗性スズ メノテッポウに対する効果 の確認
7.NH-1002 細粒 インダノファン:0.8% ジフルフェニカン:0.125% [日本農薬]	継								・効果、薬害の確認
8. SYJ-100乳 プロスルホカルブ 78.4% [シンジェンタ ジャパン]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草	茎葉兼 土壌	播種後〜大麦 2葉期、 雑草発生始ま で	400〜 500mL 散布水量 100L	全土壌 (砂土を除く)	東北以南	・葉斑、黄化、縮葉な どの症状がみられる 場合がある	・カズノコグサに対する効 果の確認 ・ヤエムグラに対する効果 の確認

A. 除草剤 (3) 水稲刈跡

1. SBH-207 (旧NHS-50) 粒 塩素酸ナリウム:50% [エス・ディー・エス バイ テック]	実・継 (従来どおり)	一年生雑草、多年生 イネ科雑草、マツバイ	土壌	水稲刈取後 雑草生育期	20~25kg	全土壌	東北以南	・多年生イネ科雑草に 対する薬量と効果の確 認 ・多年生広葉雑草に対 する、当年の効果、お よび翌年の発芽量低減 効果の確認 ・オモダカに対する当年 の効果、および翌年の 発芽量低減効果の確 認
---	----------------	-------------------------	----	----------------	---------	-----	------	---

B.生育調節剤

注)アンダーラインは新たに判定された部分を示す。

薬剤名 有効成分及び含有率 (%)	判定	使用規準							継続の内容
		対象作物 使用目的	処理法	処理時期	使用量 (/10a)	適用土壌	適用地域	使用上の注意	
1.BAW-0907液 クロルメコト 75% (w/v) [BASFシャパン]	継								・効果、葉害の確認 (北海道)
2.KUH-833F(M)フロア ブル プロヘキサジオンカルシウム 塩 5.0% [クマイ化学工業]	実	・小麦対象 ・節間伸長 抑制による 倒伏軽減	茎葉	止葉期～ 出穂5日前出 穂始期	150～ 200mL 散布水量 100L	全土壌	全域	・止葉期とは止葉が 確認できた日を目安 とする	・出穂始期での効果、 葉害の確認 ・200mL/10a処理での 効果、葉害の確認

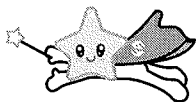
品質の向上に **日曹の農業**

植物成長調節剤

花類の節間伸長抑制に

ビーナイン 水溶剤80
(ダミノジット)

ぶどうの品質向上に

日曹 フラスター 液剤
(メピコートクロリド)だいず・
とうもろこし・
キャベツ畑の除草剤**フィールドスター** 乳剤
(ジメテナミド)スズメノカタビラを含む
イネ科雑草の防除に
全面茎葉処理型除草剤**ホーネスト** 乳剤
(テブラロキシジム)

イネ科雑草の除草に

生育期処理
除草剤**ナブ** 乳剤 (セトキシジム)

日本曹達株式会社

本社 〒100-8165 東京都千代田区大手町2-2-1
☎ 03-3245-6178 FAX 03-3245-6084
<http://www.nippon-soda.co.jp/nougoy/>